



小松獅子の拵舞



小松獅子の袖舞

黄金、小草が足にからまる

○

この弓は神に召されし弓なれば
天にひびいて、絃音がする

○

この寺の香の煙は細けれど
天に上りて、むら雲となるらん

○

国安く、民は豊かにわが獅子の
まもりますのも、あらわれにけ
り

3 復興後の経過 大正十五

の維持に努めている。もともと、秘曲、門外不出のものあるから、小松村の長男によって引きつがれることにな
っており、次男以下には伝授しないのを本態としている。

昭和二年の若松市の彼岸獅子舞大会は、その後も何回も行なわれているし、昭和十四年には、イタリア経済使
節団来若の折上演して、その名曲を外国人にも披露している。昭和十六年松平家の三兄弟保男、恒雄、山田伯
来若の時も、戊辰役の小松獅子の功をめでられて、特に秘曲牝獅子かくしを所望されて御覧に入れた。